

課題名： ICT(情報通信技術)活用による地産地消システムの構築

研究代表者：ソフトウェア情報学部 講師 山田敬三

課題提案者：住田町 農政課 小野和絵

研究メンバー：山田敬三(ソフトウェア情報学部)、小野和絵(住田町)

技術キーワード：地産地消、アジャイル開発、受発注システム

▼研究の概要(背景・目標)

住田町では、地産地消推進の一環として、学校給食センターへの地元食材の供給体制確立に取り組んできている。しかし、受発注の調整を行政職員が行っている現状では、自給率の向上は難しい状況である。そこで、本研究では農作物の受発注管理支援システムの提案・プロトタイプ開発をアジャイル開発手法により行った。

▼研究の内容(方法・経過)

1. 農作物の受発注管理支援システムのアジャイル開発。
2. 期間：2017/05/22～12/07
6回のイテレーション。
3. 抽出要求：17件。
 - ・受注者(農家)のタブレット使用、
 - ・画面遷移の最小化、
 - ・応札作業の簡単化 など。

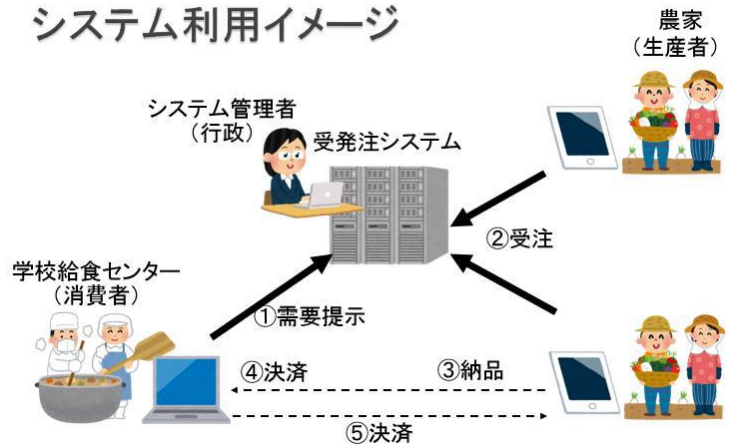
▼研究の成果(結論・考察)

1. 6回のイテレーションを通じて、右図のようなシステム利用イメージを得た。
2. プロトタイプシステムは、Webアプリケーションとして実装された。
3. プロトタイプシステムは、現在も稼働中であり、2019/03/31まで稼働する予定である。



地産地消給食「すみたっ子給食」の様子

システム利用イメージ



▼おわりに(まとめ・今後の展開)

1. プロトタイプシステムのアジャイル開発を通じて、地産地消支援システムの開発を行った。
2. 本研究で得られたプロトタイプシステムをもとに、実運用に耐えるシステムを構築し、運用につなげる。
3. 開発に当たり、ご協力いただいた住田町学校給食センター佐藤舞様に感謝申し上げます。